



東京清掃労働組合退職者会機関紙

清友

No. 188

2025 年 4 月

2025 年 4 月 1 日発行

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SK プラザ5F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541

与党過半数割れを！

都議選・参院選勝利！ 政治を変えよう

●**参院は岸まきこ再選を！**
参院選は、まず第一に、自治労組織内候補の岸まきこさん再選を期しています。そして、事実上の政権交代実現へ、参院選でも与党

●**東京清掃推薦候補の当選を！**
都議選は、都在住・在職者の生活に直結するだけでなく、国制選挙を占う側面をもっています。退職者会の選挙に関する方針は、「東京清掃推薦候補への投票・応援」を基本としています。

5月の大きな行動

■日比谷メーデー

▽5月1日(木)

9時30分集合

▽日比谷野外音楽堂

集会後、鍛冶橋までデモ

■憲法集会

▽5月3日(土/休) 13時

▽有明防災公園

集会後、有明地区をデモ

●**日比谷メーデーと憲法集会に結集しましょう！**
5月1日に日比谷メーデー、3日に憲法集会が行われます。労働者の生活と権利拡充、改憲・軍拡・原発帰帰阻止を掲げ、街頭アピールしましょう。



過半数割れを目指します。衆院の与党少数化によって、国会審議はかなりまともになり、国民目線の政治の可能性が高まっています。それを決定的にするため、7月の参院選は重要です。選挙区選挙は、野党系候補を応援しましょう。

お花見
ウォーク江戸期から続くサクラの名所
飛鳥山散策博物館見学
食べ・飲み放題ランチで満腹

3月28日の朝、かなり強い雨、昨年、雨で中止した悪夢がよぎりましたが、天気予報を信じて、出発。10時王子駅前集合、いつもながら誰か遅刻。ムムム。飛鳥山名物『アスカルゴ(モノレール)』に乗って飛鳥山公園へ。

★サクラは3分咲きでしたがいいんです、咲いていれば。ちよつと物足りない感があった

ので、急遽『飛鳥山博物館』へ。飛鳥山台地の下で発見された日本最大級の中里貝塚、「縄文の水産加工場」と言われ、カキとハマグリが5m近く堆積した「剥ぎ取り標本」は圧巻でした。

★ランチ宴会も満腹・大満足
洪沢栄一所縁の建物や公園などながめながら飛鳥山を一周。もう一つのお目当てランチ宴



サクラの木の下で (飛鳥山)

アスカルゴから手を振る
(写真ちっちゃいから顔が分からん)

カンパ〜イ! (しゃぶ葉)

会は、王子駅前の「しゃぶ葉」。食べ放題・飲み放題で安い、面白い、満腹、大満足でした。その上、「博物館が1ヶ所だったから」と、参加費が5百円バック。自分が出したお金のなに、割り戻して得した気になりますね。参加者は15名。天気もよく、楽しい花見になりました。

5月12日 旧品川宿〜
大井村探訪+ランチ宴会

春の「フィールドワーク」は「旧品川宿と大井村の歴史探訪とランチ宴会」です。江戸五街道・東海道に設けられた品川宿は盛り場になる一方、見せしめのため設置された「鈴ヶ森刑場」が近くにあり、被差別部落が形成されました。江戸期の賑いと、その裏の歴史を見聞する意味深いツアーになると思います。



海蔵寺「無縁仏」

- ▼開催日 5月12日(月)
- ▼集合 10時 / 京浜急行線「鮫洲」駅
- ▼コース 9ヶ所の寺社を訪ね、旧品川宿や旧東海道の痕跡、被差別部落の関係などを見聞
- ▼宴会 新馬場駅付近でランチ宴会
- ▼参加費 検討中

6月13日 第17回定期総会

第17回定期総会を、6月13日に開催します。本誌前号で開催日を14日と記載しましたが、誤りです。「最近、ボケが進んでまして」と、言い訳をしてお詫びします。

「第17回定期総会」案内

▼開催日 6月13日(金)

▼開会 10時15分開会

▼会場 清掃会館

▼懇親会 地下ホール

▼懇親会 12時30分開始

(総会終了後)

※懇親会費は千円程度の予定

総会運営は、コロナ禍明けの昨年と同様の方式を考えています。総会の案内は、5月初めに差上げます。総会議案も、5月にお送りします。

今年は、役員改選の総会で

第4回 第17回定期総会

第17回定期総会準備、春のフィールドワーク日程、秋の日帰り旅行先、旅費支給事務簡素化を検討

3月10日に第4回幹事会・専門部会を開き、定期総会準備、秋までの行事を検討しました。また、旅費支給事務の簡素化へ向けた検討を始めました。

第17回定期総会準備

6月13日に開催する第17回定期総会の来賓、提案する議案の項目、総会時程、準備スケジュールなどを確認しました。

春と秋の行事構想検討

行事の関連では、3月10日に開催した「学習会」と、3月28日に行う「お花見ウォーク」の実施細目を最終確認しました。両方うまくいったと思います。

また、「春のフィールドワーク」は、「品川宿と旧東海道」をテーマに、5月12日に開催することを決めました。準備が少々遅れ気味ですが。

秋の行事は、日帰り旅行の行

き先の検討をしています。電車によるツアーを前提に、いくつかに候補を絞りました。旅行日は、10月か11月を予定しています。5月の幹事会で、「いつ頃、どこへ行くか」を決めます。決まり次第、お知らせします。

旅費支給事務簡素化検討

会の業務や行動参加に支払う旅費は、効果的財政運営に資するため、実費主義を採っていますが、事務が専門的で煩雑になっ

てきているくらいがあります。誰でも会計を担当できるようにするために、事務の簡素化が必要です。そこで、「3段階程度の定額化」はどうかと考えています。定額化は有利不利が出ますので、それほどの程度薄められるかが課題。総会に間に合わせたいのですが、厳しいかと。



4月～5月の主な行事と行動予定

▼追い込もう！参院選で再び自公政権を過半数割れへ！

対話集会（紹介）

*日 時 4月9日（水）

*場 所 文京区民センター

*講師 辻元清美参議院議員

*資料代 800円（参加者負担）

◆清掃・人権交流会「草加・吉見フィールドワーク」

*日 時 4月13日（日）

*参加費 2千円

*参加申込 先着順（締切り）

▼4・13根津山小さな追悼会

この街で空襲があつた（紹介）

*日 時 4月13日（日）

*場 所 南池袋公園

『空襲犠牲者哀悼の碑』前

●4・19国会議員会館前行動

*日 時 4月19日（土）

*場 所 衆院議員第二会館前

●中央メーデー

*日 時 4月26日（土）

*場 所 代々木公園B地区

サッカー場

●日比谷メーデー

*日 時 5月1日（木）

*場 所 日比谷野外音楽堂

（デモ出発11:25）

※デモ鍛冶橋コース

●未来は変えられる！

戦争ではなく平和な暮らし

2025憲法大集会

*日 時 5月3日（土/休）

*場 所 有明防災公園

■春のフィールドワーク

*日 時 5月12日（月）

*集 合 10時

京浜急行線「鮫洲」駅東口

*ランチ 新馬場駅付近を予定

*参加費 検討中

●5・19国会議員会館前行動

*日 時 5月19日（月）

*場 所 衆院議員第二会館前

●狭山事件の再審を求める市民集会

*日 時 5月23日（金）

*場 所 日比谷野外音楽堂

※集会後デモ



2025 春の学習会

少数与党下の国会
情勢と今後の課題

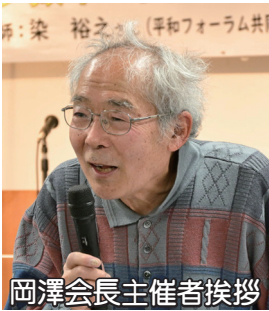
3月10日、『春の学習会』を開催しました。テーマは「少数与党下の国会情勢と今後の課題」、講師は、平和フォーラム共同代表の染裕之さん。

衆院選の結果と現下の国会情勢、全労連系や市民運動と連携する『総がかり運動』の現状、曲がり角にある運動の再考、『平和フォーラム』の運動の進め方見直しなど、実践面の課題がリアルに報告されました。質疑も4人、貴重な意見交換をできました。参加者は13名、懇親会は8名でした。参加者の増が課題です。

東京清掃の運動と課題

学習会の前段で、東京清掃坂部副委員長から、東京清掃の運動と課題の報告を受けました。

「5課題50項目」の賃金要求を掲げて区長会との団交を行い、25春闘をスタートさせる、19区・一組で約100名の新規採用



衆院で予算案を修正

衆院で29年ぶりに予算案が修正された。与野党伯仲で緊張感のある国会になりつつあり、かつてのような自民党独裁ではなくなった。

衆院で29年ぶりに予算案が修正された。与野党伯仲で緊張感のある国会になりつつあり、かつてのような自民党独裁ではなくなった。



維新は高校無償化を引換えに賛成し与党を助けた。国民は高めのボールを投げ、石破は維新に鞍替した。駆け引きになり、立憲は影が薄いと言われる。

第50回衆院選の結果

▼選挙結果と分析、傾向

議席数は、自民56減、公明8減、立憲50増、維新6減、共産2減、国民21増、れいわ6増等。比例区の得票数は自民27%減、公明16%減、立憲0.6%増、維新37%減、共産19%減、国民138%増、れいわ72%増となった。

国民は、「年収を増やす」で若い層の票が伸びた。玉木のユーチューブが人気。SNS活用で若い層は国民、れいわが伸び、高齢層は自民と立憲が高い。▼「しんぶん赤旗」のスcoop 2千万円問題で一挙に空気が変わり、自民に打撃。「自民党

にお灸を」と考えた層は立憲、れいわを選択したと思われる。赤旗スクープにも共産は議席減。野党共闘からの転換で、小選挙区の総得票数は伸びたが、供託金没収続出。共産の選挙総括は、「赤旗スクープの影響力」を強調、「政治論戦は全体的には的確だったが、自力不足」としている。共闘否定の方向だ。

▼憲法審は「中山方式」に

与党少数の国会で、野党が常任委員長約半数を占め、憲法審査会会長に枝野が就いた。

サンケイは、「自民党は早期改憲をあきらめ、憲法審査会長を立憲に渡した」「枝野氏は、『活発に議論するが、9条と緊急事態条項はやらせない』と発言、憲法審初代会長の自民中山太郎氏が築いた『中山方式』にカーブを切った」と報じている。

▼立憲は共産との共闘否定的

共産は「安保反対が一丁目一番地」、立憲は複数の意見があるが、日米同盟を現実として認めたうえで政権交代を優先する路線が主流。安保、日米同盟の視点は立憲と共産では異なり、共産との共闘に否定意見強い。

平和フォーラムの運動

99年、総評運動の継承を目的に『平和フォーラム』結成。12年『戦争をさせない1000人委員会』発足。15年、改憲・軍拡路線が強まる中、安倍路線阻止へ『戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会』発足。15年9月19日の安全保障関連法強行採決で『19日行動』開始。現在、『総がかり』は課題を広げ過ぎとの意見もある。『19日行動』をどうするか、見直す時期に来ているのではないか。

平和フォーラム強化検討

『平和フォーラム』は、中央組織31団体・地方129団体で構成。加盟組織から、『19日行動』や『総がかり』に対する意見が出されている。これまでの経過を知らない組合員も多くなっている。『平和フォーラム運動強化検討委員会』を24年10月に設置。組織の力量低下の状況下、組織



森 遵さん



矢萩和利さん



岩田正隆さん



押田五郎さん

と足元強化、『全労連』との関係などの議論があり、『総がかり』はマンネリ化しているとの意見から、運動にメリハリをつけることや、野党共闘の見直しなどが検討されている。新たな政治局面も踏まえ、『平和フォーラム』立ち上げ趣旨を再確認すべき時期との認識がある。

『19日行動』はカンパによる運営が基本、実態は毎月10万円赤字。『5・3憲法集会』の経費1千万円も『千人委』と『憲法共同センター』が半々で負担している。『平和フォーラム』の予算は1億5千万円、これからも労組が支えていけるかだ。

労働運動の意義と平和運動

自治労などの学習会で、「なぜ、労働組合が平和運動をやるのか」と聞かれる。労組でやりたくないのは「平和運動、次が政治活動」とされている。

そこで歴史の話をしていく。戦前の労働運動は弾圧され、

解散させられたこと、戦後の5大改革の一つが労組結成促進であり、民主化が進められたこと。労働運動は富の分配にとどまらず、権利を主張し、人間として生きていく上での運動。

日本はアジア太平洋戦争で何をしたのか。平和憲法は何をもたらしただのか。未完成の「戦争する国」への総仕上げ改憲を許してはならない。

しかし、時代が変わってきており、若い層にどう伝えるのか。市民運動との連携は大事。今

訃報

戸張壽雄さん逝去

「バリちゃん」も活躍され、

の愛称で親しまれた戸張壽雄さんが、3月12日、老衰により亡くなりました。戸張さんは、葛飾西（現・葛飾）支部委員長や地連役員を長くつとめ、職場活動のリーダーとして活躍されました。退職後は、08年の再建退職者会発足時、会計監査に就任、10年4月から18年6月まで副会長を担当するなど、10年に亘り退職者会活動に貢献されました。

2018年6月
総会で退任挨拶

戸張さんといえば「柔道」です。都庁柔道部でも地域で

地域では、柔道連盟の役員を務め、小学校の子供見守り隊、中川の清掃作業などボランティア活動に献身しました。アレっ？と思う言動もありましたが、今となっては、思い出の一コマです。享年84歳でした。故人の冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

後も続けて行くが、現実には、労組と市民団体に軋轢がある。

Q&A・4名の意見に込めて

「地域で共産と共闘している」「連合の右傾化に引っぱられていないか」「19日行動は必要」などの意見に込めて、

うまくいつている地域は、共闘を進める必要があると思う。平和運動の再生に工夫が必要だ。『総がかり行動』の整理は、運動の縮小ではない。若者を引き入れる取組みが必要だ。

東京都退職者協議会学習会

山口二郎講師「日本政治の展望」

3月4日、田町交通ビルで、都労連に関連する退職者組織『東京都退職者協議会(都退協)』の学習会が行われました。

講師は、立憲政党による政権樹立を目指して進言を続けている法大教授の山口二郎さん。歯に衣を着せぬ評論が売り。この日も、言いたい放題でした。

トランプは民主主義破壊

トランプ再登場で、民主主義が壊れている。第二次世界大戦



で民主主義がファシズムに勝利したとするのが、共通認識。日本

本はファシズム側だったことの反省に立ち、民主主義と平和を維持してきた。アメリカは、ベトナム戦争や中東紛争のこともあるが、一応、民主主義破壊を防止する立場をとってきた。トランプの言動は、その意味の戦後が終わったことを示すもの。

総選挙の意味をどう読むか

立憲前進は小選挙区制のお陰、今回は、第一党ではなく第二党にボーナス効果。裏金自民党を懲らしめ、死に票にしない意識から立憲に票が入った。

比例票では、自民は約30%減、立憲は前回と同じ、維新は大幅減、公明は600万を切り、国民は躍進、れいわは共産を上回った。

安倍改憲阻止を旗印に「野党と市民の共闘」をやったが、限界があった。共産と手を組んだが、政権交代には行けない。共産のイデオロギーが桎梏。安倍派大凋落で改憲の推進力がな

くなり、政治の争点に変化、安倍なき今、座標軸は変化している。



山口二郎講師

アベノミクス10年の総括

アベノミクスは、共同幻想。本質は円安、株高、土地高騰。国民には行き渡らず、一部に儲けが行く。労働者の賃金は79年をピークに30年連続減少。食糧・基本生活用品は輸入頼りなので、生活者には円高の方がいい。

人々はなぜ安倍政権を支持したか。東日本大震災と原発事故の衝撃から、正常バイアスが働き、根拠もなく社会への満足度が高まった。その時に安倍政権が誕生し、長期政権化した。安倍政治の本質は先送りと、やっているふり。歪みが蓄積した。

これからどうするか

立憲は政権をとるための多数派構想をもたない。維新・国民は自民に操られ、「最小限勝利連合」で「自公+国民」「自公+維新」の構造。低空飛行でほとんど安定し、与党内政争も難しい。その結果、立憲は霞む。

労働者を代表する政党を育てることが必要。多元性と寛容、働く人とマイノリティの権利を訴え、排外主義ではない建設的ナショナリズムを考えるべき。

本当の対立軸は、グローバル資本主義は正。資本主義は構造変化。21世紀資本主義は収奪型。普通の人にはリスクが高まる。団塊ジュニアの氷河期は典型例。雇用政策の所為であり、人災だ。民主党再結集に向けて何が必要か。本来、連合支持基盤の政党は一つであるべき。参院選で野党共闘は無理。昨年の衆院選で共産は先祖返りした。最低限、立憲と国民は調整すべき。

国民民主の「手取りを増やす」はヒット。若年層は福祉国家迷惑論、社会保障の負担が重いと不満が強いが、税・社会保障削減は、結果的に若年層の窮乏化へつながる。玉木はデマゴグになっっている。責任ある政党は、束の間の手取り増加ではなく、公平・公正を追求すべき。

「国民生活第一」をもう一度唱えよう。民主党時代からの政策論議をいかし、全世代型社会保障を再構築すべき。左右のポピュリズムを排そう。

国家権力は石川一雄さんの命を返せ！

清掃・人権交流会会長 押田五郎

石川一雄さんが3月11日に亡くなったという知らせに言葉を失った。石川さんは、62年間無実を訴え続けて闘ってきた狭山事件の再審の扉を開くことができないままに、無念にも命が尽きてしまった。

3月11日は、事件翌年の64年に浦和地裁で死刑判決が下された日だ。部落差別にまみれたスピード裁判で言い渡された死刑

判決。その死刑判決から61年目の日に、国家権力によって「死刑」が実行されたと言わざるを得ない！

部落差別によって学校に行けず、文字も満足に書けなかった石川一雄さんは、警察と検察にだまされ、重要証拠もことごとくでっち上げられて、女子高校生殺しの犯人に仕立て上げられた。部落差別に基づく国家的犯

罪行為であるがゆえに、検察は証拠を隠し続け、裁判所も事実を目をつむって訴えを退け続けた。第3次再審請求を求めている。第3次再審請求を求めている。第3次再審請求を求めている。

この間、弁護団の努力で石川さんの無実を証明する新証拠が次々と出て、いよいよ再審開始

決定が近づいてきたと期待も高まっていた。昨年の袴田巖さんの再審無罪は、狭山事件にとっても大きな弾みとなった。「次は狭山だ！」を合言葉に、今年こそ再審の扉を開かせて、完全無罪を勝ち取ろうと意気込んでいた矢先に亡くなった石川一雄さん。悔やんでも悔やみきれない。

部落解放の闘いの中心であり背骨であった石川一雄さんの闘い。個人的になるが、私も55年前にその闘いに出会って触発され、それをきっかけに清掃労働者になり、今日まで活動してきた。私自身の出発点でもあった。

第3次再審請求は、請求者本人の死亡により打ち切りになるという。もうそこまで、再審開始に手が届きそうなところまで来ていたのに、何ということだろう。今後は、妻の早智子さんが請求人になって第4次再審請求を早急に闘うことになる。本当に悔しいが、残っている私たちは石川一雄さんの遺志を引き継いでいく必要がある。差別もえん罪もない社会の実現のためにさらに頑張っていきたい。



『狭山事件の再審を求める市民集会』で訴える石川一雄さんと石川早智子さん
(2024年5月23日)



えん罪被害者とともに闘ってきた石川一雄さんと石川早智子さん
(2023年10月31日の集会)



石川一雄さんとお会いする最後の機会となった東京清掃の狭山現地調査
(2024年10月13日)

※『せいそう人権だより』投稿文に加筆

税金は軍事費ではなく、生活改善に使え！

寒の戻りによる厳しい寒さの中、3月の『19日行動』が行われました。この日も、国会では熱い論戦が行われていました。

医療崩壊の一方で軍事費9兆円

少数与党下、予算の修正が行われるなど、国会がまともな機能を取り戻しつつある状況を踏まえ、主催者は「医療が崩壊し、病院経営が困難になっている。介護職場も人材不足が深刻。一方で軍事費は9兆円弱。大軍拡ではなく、国民生活重視の予算

にすべきだ」と訴えました。

日本も人権否定のトランプ流

市民からのアピールで、『ピーズボート』の野平晋作さんは、『ガザではイスラエルの攻撃で400名亡くなった（19日当時）。トランプは攻撃を事前確認していた。ウクライナを軽視したロシアとの交渉は力こそ正義のトランプ流。マイノリティ否定、多様性・公平性無視、人権否定がトランプの本質』と批判し、『トランプ支持者は環境や人権を守ろうとする人々を『意識高い系』と揶揄する。日欧でも同じ傾向が出ている。社会の分断を克服することが大事。切り捨てられていた人たちに寄り添う運動を強めよう』と、続いて、『質問と表現の自由を守る会』の佐藤学東大名誉教授は、『戦争協力への反省に基づき設立された『日本学術会議』の『法人化法案』は、政府の介入を強め、会員に守秘義務を迫らせるなど、学者を軍事研究へ動員することを目指すものだ。物言う学者の排除を許すな』と訴えました。

世田谷地域から「少数与党の下での軍拡・改憲許すな！」の声あがる

① 2・26清水雅彦さんの講演で

世田谷1000人委員会総会



清水さんから「は、安保法制改悪10年、日本の危険な動きに、地域からの取組を強めてもらいたい旨のお話。」

② 3・23世田谷版「総がかり

「軍事費ではなく、暮らしに予算を！」をテーマに100名の参加の区民集会・パレード

いずれも退職者会員・現職参加でとりくむ。



「人類はプラスチックに滅ぼされる？」～世田谷の環境を考える市民連絡会が学習会

3月14日開催。講師に『有

害化学物質から子供を守るネット』代表世話人で弁護士の中下裕子さん。中下さんは昨年の、『プラごみ条約交渉』国際会議にオブザーバー参加。講演では、生産抑制が急務ななか、産油国などの経済的利害からの反対でまとまらなかった経過の報告。日本の「各国の自主性に任せる」という曖昧な態度を指摘。

プラそのものや添加物・処理を含め人体への有害性に、参加者一同身がすくむ思いだった。

マイクロプラの海洋汚染にとどまらず、人体への蓄積はすでに明らか。プラの処理方法でGX（環境問題解決と事業拡大両立



という、日本の現状からの脱却、生産抑制、プラに頼らない生活がもたらされている。

（森 遵記）

3・11福島原発事故を忘れない！

東日本大震災と東電福島第一原発大事故から14年、3月8日、代々木公園で『3・11福島原発事故を忘れない』さようなら原発全国集会』が行われました。

政府と東電の無責任を批判

福島現地や原発訴訟、青森、新潟等各地から6団体が発言。「福島」の被害は深刻、まだ収束せず、復興していない。原発事故の被害がこれほどまでに大きいことを忘れてはならない。地



震大国日本に原発はいらない」

「住民らの訴訟で、国の責任を認めない判決が続いている。避難者追い出し判決をする司法に公平性はない。誰も裁かれなければ、無責任体制が維持され、再び大惨事が起こりかねない」

「青森六ヶ所村の再処理工場は着工後32年経つが竣工していない。技術の未確立も認めず、責任も取らない国に、原子力政策を進める資格はない」「新宿御苑に、放射能汚染土の持込み実験が行われようとしている。事故後百Bqから8千Bqに引き上げた安全基準を元に戻さず、安全としている。安全なら持ち出すな」等、批判が集中しました。

原発再稼働反対アピール

主催者の鎌田慧さんは閉会挨拶で「あれほどの事故に誰も責任をとらない。責任も追及できない。これが現在の原発政策だ」と、政府を厳しく断罪しました。集会終了後、休日で賑わう原宿を「原発再稼働反対」「福島を忘れない」とシュプレヒコールして、デモ行進しました。

サンバのリズムでマーチンマーチ

『生活と権利のための外国人労働者行動』マーチンマーチ』は、毎年3月の日曜日に開催されます。今年は、3月9日に行われました。前日の震えるような雨天から一転、ポカポカの晴れ空です。

陽気に楽しくデモ行進

午後1時、上野公園水上音楽堂横に集まり、30分の準備等の後、御徒町駅前を通って御徒町公園まで、約1Kmのデモ行進を行います。

デモ行進は、陽気なサンバ演



奏団を伴う楽しいものですが、これがなかなかデメリットもあります。途中コールというのがあって、「賃上げ」：「イエーッス!!」、「首切り」：「ノー!!」とやるのですが、音楽でよく聞こえなくて、「首切り」：「イエーッス!!」なんてやらないか、心配になりました。

外国人に不寛容な日本

デモ終了後、御徒町公園で集会を持ち、防災隠しや首切りなど、外国人労働者の置かれている厳しい実態の報告がありました。東京清掃の坂部副委員長も連帯のあいさつを行いました。日曜日なので観光客も多く、楽しそうな行進に興味をひかれる人もいました。

次回は、もうちょっと派手な色の服で来ようかな。

(岡澤徹記、写真東京清掃提供)



連帯挨拶をする
坂部副委員長

東京清掃第95回定期大会



多田修一郎委員長



坂部貴之副委員長



渡辺一彦副委員長



渡辺 歩書記長



萩原崇氏書記次長

東京清掃第95回定期大会が、3月16日、連合会館で開催され、退職者は来賓として招待されました。

■冒頭で石川一雄さんを悼み黙祷

多田委員長は、挨拶の冒頭で「狭山事件の石川一雄さんが3月11日に亡くなった。本人の無念を思うと言葉もない。この場で、黙とうをささ



激励挨拶する岡澤会長と瀬瀬副会長

たが、中高齢層には厳しい結果だった。誰もが将来に希望が持てる賃金・任用制度の確立が不可欠だ。東環保50社でも人が集まらないと聞く。区民の安全・安心を守り、持続可能な事業運営を行ううえで、直営の必要性は明らかだ。改めて再直営化を目指したい。今年は敗戦80年・原爆投下80年、昨年、被団協がノーベル平和賞を受賞した。反戦・平和・反核の運動を展開していきたい。昨年の衆院選の結果、与野党逆転し、国会審議などに良い傾向が現れて

退任した西村副委員長



■運動の強化を目指し、議論

大会議論では、4人の代議員が発言。主な内容は「担当技能長制度等人事制度改善」「60歳超職員の労働軽減策」「自治研活動強化、反

げたい」と発言、参加者全員で黙とうしました。

■賃金・任用制度改善、再直営化、参院選勝利を訴え

続いて、「今年度も若年層の賃金は上がったが、中高齢層には厳しい結果だった。誰もが将来に希望が持てる賃金・任用制度の確立が不可欠だ。東環保50社でも人が集まらないと聞く。区民の安全・安心を守り、持続可能な事業運営を行ううえで、直営の必要性は明らかだ。改めて再直営化を目指したい。今年は敗戦80年・原爆投下80年、昨年、被団協がノーベル平和賞を受賞した。反戦・平和・反核の運動を展開していきたい。昨年の衆院選の結果、与野党逆転し、国会審議などに良い傾向が現れて

東京清掃本部常任中執

- 委員長 多田修一郎(直属)
- 副委員長 坂部 貴之(練馬)
- 副委員長 渡辺 一彦(文京)
- 書記長 渡辺 歩(葛西)
- 書記次長 萩原 崇氏(板橋)
- 常任中執 高橋 正幸(蒲田)
- 常任中執 西大條 剛(中野)
- 常任中執 徳山 清治(世田谷)
- 常任中執 水落 康治(葛飾)
- 常任中執 佐藤 健男(墨田)
- 常任中執 松澤 貴広(文京)

いる。来たる参院選では、岸まきこさんの再選を目指し、総力をあげたい」と訴えました。

■岡澤会長は「労組の大事さ」を強調し激励

来賓挨拶で岡澤会長は「フジテレビの騒動は、経営者が現場で起きた問題を放置したことが原因。労組が強い決意で要求を出さなければ、経営者は現場実態に目を向けない。東京清掃の団結をさらに強めよう」と、労働組合の大事さを強調し、激励しました。

■新体制で総団結し、引き続き社会的労働運動強化に期待

今大会で西村副委員長が退任(職場復帰)し、新たな副委員長に渡辺一彦さんが就任。新しい常任は別記のとおりです。内外ともに厳しい状況にもかかわらず、東京清掃には、首都圏労働運動の先頭に立つことが期待されています。退職者は引き続き応援していきます。(取材記事、写真は東京清掃提供)

戦平和の取組強化」「特別昇給など民主的処遇改善の取組み強化」「青年部活動の強化と支援の要請」等でした。

今年も、若い層が活発に発言したことが好印象です。